様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月３０日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００８年度～２０１０年度
課題番号：２０５２０３２４
研究課題名（和文）　江戸末期に日本に伝わった中国伝統演劇に関する基礎的研究

研究課題名（英文）　A fundamental study on the Chinese traditional drama spread to Japan in the late Edo period

研究代表者
赤松　紀彦（AKAMATSU　NORIHIKO）
京都大学・高等教育研究開発推進センター・教授
研究者番号：６０１７５７８４

研究成果の概要（和文）：
本研究は、中国の伝統演劇が江戸時代末期の長崎において上演され、またその楽譜が、『明清楽』とよばれる、当時流行した中国音楽の楽譜の中に収められていることを明らかにし、またこれらの作品が、中国の伝統演劇史の中でどのような位置を占めているかを解明したものである。諸資料を検討した結果、四十種近くに及ぶ演劇作品の名が記録に残されており、それらの多くが中国の演劇史上、乱弾戯とよばれるもので、またごく少数であるが崑曲も含まれていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
This study clarified that Chinese theater was played in Nagasaki in the late Edo period and that its score was contained in a then popular Chinese music score called Minshingaku, and also shed light on what kind of positions these works have in the history of traditional Chinese theater.　As a result of studying several materials, I made clear that the names of as many as nearly 40 kinds of theater works were recorded, many of them were called Luantanxi in the history of Chinese theater and that Kunqu was also included, however few.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,800,000	540,000	2,340,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：中国伝統演劇史
科研費の分科・細目：文学・各国文学、文学論

キーワード：中国伝統演劇、長崎、明清楽、乱弾戯、崑曲

１．研究開始当初の背景

よく知られているとおり、江戸時代、鎖国以後も長崎には中国からの貿易船が往来し、貿易品のみならず、さまざまな文化をもたらした。『長崎唐館図集成』（関西大学東西学術研究所資料叢刊九－六、関西大学出版部、2003）に収められる二十九種のいわゆる「唐館図」は、当時の長崎における中国人の生活のさまざまな側面を細かに描き出している点で、極めて興味深いものである。

その中に、「館内唐人躍之図」（同書 27『長崎古今集覧名勝図絵稿本』石崎融思筆、解説によれば文政二＝1819 年作画）と題される一枚の絵がある。

この絵は、毎年二月二日、土地神の神誕日に土神堂の前で行われた祝祭劇のありさまを写したとされ、ほぼ同じ構図による彩色図である「清人館内戯場之図」が、同書 29『唐蘭館図巻』（高川文筌筆、天保十四＝1843 年）にも見られる。仮設舞台の上には、六人の役者と五人からなる楽隊が描かれており、主役の女性が正面に座る役人に何かを訴えているシーンであると考えられる。

彼らが演じた演劇がどういうものであったかを伝える、もう一つの重要な資料が同書 17『唐館図説』（筆者不詳、文化五＝1808 年）である。こちらは、まず「唐人踊舞台之図」として舞台のありさまが掲げられいる。舞台図には役者の姿がなく、八人からなる楽隊のみが描かれる。おそらくは、役者が登場する前の舞台の上のありさまを描いたものであろう。そのあとに「唐人踊題」と題して演目が記され、さらに「踊狂言仕組」としてそれぞれのある場面を描いたと見られる図が四葉ある。

この四種の作品は、滑稽なやり取りを中心としたいわゆる民間小戯の類に属するものではなく、それぞれ、同じ演目が京劇をはじめさまざまな地方劇の中でも存在することからも解るとおり、極めて本格的な演劇であったと見てよい。

では、当時、上演されていたこうした演劇は、どのような地方劇種であったのか、どのようなテキストを用い、どのような人々が演じたのか、専業の劇団であったとすれば、彼らはどこからやってきたのか。こうした問題は、極めて大きな意味を持っている。というのも、乾隆末期から嘉慶、道光にかけての時期、すなわち１８世紀後半から１９世紀前半の時期は、中国演劇史において、元雑劇、明清伝奇以来の伝統をうけついだ楽曲系演劇が衰退の道をたどる一方で、新しいスタイルを持つ詩讃系演劇が確固たる地位を築いていった時期にあたるからである。こうした中国演劇史をふまえた上で、江戸末期日本にもたらされた中国の伝統演劇について明らかにしたいというのが、本研究開始当初の背景である。

２．研究の目的

本研究は、上で述べたように、江戸時代末期に日本に中国の伝統演劇がもたらされ、そして『明清楽』とよばれる音楽の楽譜のかたちをとりつつ、そのテキストが伝存していることに注目しながら、そうした作品が中国伝統演劇史の中でどのような位置を占めるのかを明らかにしようとするものである。いままでほとんど注目されなかった資料である「明清楽」中の戯曲作品を、中国演劇史の視点から検討し、位置づけることを目的としている。かつて中国の伝統戯曲作品が、単なる書物としてではなく、実際に演じられるものとしての演劇作品のかたちで我が国に伝え

られたという、日中文化交流の上できわめて興味深い、かつこれまでほとんど知られていなかった事実を明らかにしようとするものであり、大きな意義を持つであろう。

３．研究の方法

（１）「明清楽」楽譜の中に含まれる各種の作品の詳細な目録を作成し、それらが民歌・説唱（語り物・俗曲）であるのか、戯曲作品であるのかをまず検討した上で、後者に属するもの、すなわち『雷神洞』・『林冲夜奔』・『孟浩然踏雪尋梅』・『武大郎賣燒餅』およびその他の作品について、テキストを出来る限り正確に校訂し、注釈を加えた。

（２）いっぽう、当時の長崎において中国伝統演劇が上演されていたことを如実に示す上述の絵画資料並びに大田南畝『瓊浦雑綴』に見える彼の観劇記録、さらには野田希一『得泰船筆語』に見える記述などを整理し、これらの演劇についてその演目を調査した。そして、第二の段階として、これらの作品が、どういった由来をもつものなのかについて中国の地方劇に伝わる同じ題材に基づく作品と比較し、その内容や歌辞のスタイルを分析するといった方法により、検討を加えた。

４．研究成果

（１）上述のような方法により、江戸末期の長崎で実際に上演されていた劇目、ならびに明清楽楽譜に収められた劇目として次のようなものがあり、そのうちのかなりの劇目が、中国の文献資料にも見えることを明らかにした。また、中国においても今なお伝承されているものも含まれていることが判明した。これらの資料が信頼に値するものであることを裏付けるものであろう。

『唐館図説』に見える劇目

1.呉漢放通關經堂殺妻

即ち『斬経堂』。梆子、乱弾、京劇に伝承あり。

2.龍虎鬪宋趙匡胤呼延贊

浙江乱弾では有名な劇目。

3.關雲長斬貂蟬女

『綴白裘』第十一集に「斬貂」あり。乱弾戯。

4.打擂台潘豹楊七郎

『楊家将』故事。梆子、京劇にもあり。

『瓊浦雑綴』に見える劇目

5.雙貴圖

即ち焦循『花部農譚』の『雙富貴』。浙江乱弾では有名な劇目。桂劇にもあり。また広東漢劇、潮劇の『藍継子』も同作品。

6.崔子弑齊

秦腔、川劇、梨園戯、桂劇にあり。京劇では『海潮珠』と呼ばれる。

7.斬樹別庶（走馬薦諸葛）

梆子、乱弾、京劇に伝承あり。

8.釣龜謀寶

『釣金龜』。京劇はじめ漢劇などにもあり。

9.托夢告廟

伝奇『焚香記』第二十六齣陳情，第二十七齣明冤，第二十八齣折證(即ち『陽告』『陰告』『勾證』)だと考えられる。梆子にも『打神告廟』として伝わる。越劇の『情探』も同じ題材。

10.別親過寇

11.贈帕下山

『香蓮帕』冒頭か？

12.賜福

いわゆる「天官賜福」。開場戯。

13.回朝

14.四繡旗

浙江乱弾に『賜繡旗』あり。同じ題材か。四、賜は呉語では発音がほぼ同じ。

15.遊街

傳奇『義侠記』に打虎遊街あり。同じ題材

によるものが京劇ほか地方劇にもある。
16.聞鈴
　傳奇『長生殿』聞鈴か。昆曲以外に桂劇にもあるらしい。
17.三俠劍
18.補缸
　『大鋸缸』（京劇）、『大補缸』（川劇）と同じか。『鉢中蓮』に基づく古い演目。
19.斬子
20.和番
　『昭君和番』であろう。梆子、乱弾系劇種に数多くあり。即ち『昭君出塞』。
21.賣拳
22.別妻
　『綴白裘』第十一集。京劇にも吹腔戯として伝承があった。
23.打店
　『綴白裘』第十一集。水滸戯。
24.走報
25 救皇娘
26.頭二聞

『得泰船筆語』に見える劇目
27.八仙祝王母壽
　即ち『八仙慶寿』。開場戯。
28.天官賜福
　開場戯。
29.財神
　開場戯。
30.團圓
31.私下三關
　即ち『楊六郎私下三關』。『楊家将』に基づく。

明清楽楽譜に収められた劇目
32.趙玄郎打雷神洞
　李玉の伝奇『風雲會』に基づく。歌詞は漢劇『雷神洞』に類似、乱弾戯であろう。
33.林沖雪夜走梁山泊
　標題は『水滸傳』。李開先の伝奇『寶劍記』に基づく。『納書楹曲譜』補遺に収める『夜奔』とも歌詞は似るが、旋律は崑曲とは異なる。乱弾戯であろう。
34.武大郎賣燒餅
35.討蘆柴
　『撿蘆柴』、即ち『春秋配』の一段ではないか。京劇にもある。
36.翠賽英
37.孟浩然踏雪尋梅
　明の朱有燉に雑劇『孟浩然踏雪尋梅』があるが、歌詞は異なる。
38.劉智遠看瓜打瓜精
　『白兎記』に基づくが、歌詞は異なる。

（２）これらのうち、もっとも注目に値するのは 5.『雙貴圖』、9.『托夢告廟』、及び 32.『趙玄郎打雷神洞』である。『托夢告廟』については、冒頭にふれた「館内唐人躍之図」（『長崎古今集覧名勝図絵稿本』、石崎融思筆、文政二＝1819 年作画）と「清人館内戯場之図」（『唐蘭館図巻』、高川文筌筆、天保十四＝1843 年）が描く舞台図が、まさにこの作品を上演している場面であることを、その原作である『焚香記』の清代における脚本『綴白裘』と対照することによって明らかにした。また背後に描かれた楽隊の楽器構成からみて、その劇種が崑曲であろうこと結論づけた。これについては、2011 年 5 月に中国の蘇州で開催された崑曲に関するシンポジウムでその研究成果を発表し、大きな評価をうけた。
（３）いっぽう『雙貴圖』は、焦循『花部農譚』（嘉慶元＝1796 年）に『雙富貴』として見える作品がそれであり、乱弾戯としては古くから有名であった作品であるばかりでなく、浙江紹興の紹劇において今もなお伝承されるものであることが解った。2010 年 3 月に

は紹興の紹劇団を訪問し、劇団所蔵のこの作品の脚本を閲覧、大田南畝が『瓊浦雑綴』において紹介しているそのあらすじとほぼ同じことを確認した。

（４）また、『趙玄郎打雷神洞』は、明清楽の楽譜のかたちで残っている作品であるが、この作品については、『雙貴圖』と同じく乱弾戯であること、また武漢の漢劇に同じ作品が残っている。武漢の漢劇団からその脚本と楽譜の提供を受け、歌詞が類似していることを明らかにした。旋律面での類似性についてはなお検討の余地がある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①赤松紀彦、せりふからみた南戯、日本と中国の古典演劇の比較研究・京都府立大学研究成果報告書、査読無、2011、pp.23-31

〔学会発表〕（計１件）

①赤松紀彦、従一幅画説起－崑曲是否在両百年前的日本長崎上演過－（一枚の画を手がかりに－崑曲は二百年前の長崎で上演されたか－）、中国崑曲研究中心主催両岸三地崑曲研討会、2011

〔図書〕（計１件）

①赤松紀彦、小松謙、山崎福之、汲古書店、能楽と崑曲、2009、102

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

６．研究組織

(1)研究代表者

赤松紀彦（AKAMATSU NORIHIKO）
京都大学・高等教育研究開発推進センター・教授
研究者番号：60175784